

Springer Protocols Handbooks

『 Advanced Methods in Structural Biology 』

刊行に寄せて

遺伝子組み換え技術の発展や放射光の利用により、可溶性タンパク質の結晶構造解析は容易になりましたが、大きなタンパク質複合体や膜タンパク質の結晶構造解析は依然として困難です。本書では、このような難しいタンパク質を扱う際に知っておくべき最新の技術や問題解決方法がまとめられています。

私がこれまでに行ってきた GPCR や輸送体などの膜タンパク質の結晶構造解析研究で学んだ知識や経験を基に、第 6 章「Overview of Membrane Protein Purification and Crystallization」の執筆を担当させていただきました。ここで紹介したキュービックフェーズ法と呼ばれる結晶化方法は、GPCR の結晶化への適用により、再度、注目されるようになったもので、この数年では多くの膜タンパク質の結晶化に利用されています。初めて膜タンパク質の構造解析を行う方にも分かりやすく書いたつもりですので、興味のある方はご一読していただければと思います。

第 6 章 Overview of Membrane Protein Purification and Crystallization

2016.9. 島村達郎

書籍の詳しい情報は、Springer HP よりご確認ください。

URL : <http://link.springer.com/book/10.1007%2F978-4-431-56030-2>